

子どもと共に

1年間
ありがとうございました

校長より
ごあいさつ

本日、令和3年度
の全教育課程を無事
終えることができました。
今年度を振り返り
返って一番心に浮か
ぶのは、「中中への松
山市全域からの新入
生募集」という大き
なチャレンジのこと
です。当初は正直不
安もありましたが、
生徒・教職員が一丸
となって取り組んで
くれたことと保護者
や地域の皆様のご理
解・ご協力のおかげ
で、大きな成果のあ
る一年となりました。
心から感謝申し上げ
ます。

私は、『自信と誇り』
という言葉が好きで

発行人
中島中学校
校長 神野泰二
松山市長師 817
997-0204

す。人が、物事に対し
て前向きに生き生き
と取り組むために一
番必要なことは、「自
分や自分が置かれた
環境に対する自信と
誇り」だと思ってい
るからです。ですが
ら、今年度の本校の
大テーマを『自分と
仲間とふるさと中島
への自信と誇りを育
む教育実践』として、
様々な教育活動を行
ってきました。今年
度の取組で、皆様の
ご期待にどれだけお
応えできたか分かり
ませんが、これから
も中島の素敵な子ど
もたちに、もつとも
つと『自信と誇り』を
育んでいけるよう、
教職員一丸となって
努力する所存です。

卒業式
校長式辞より

(前略)

来年度も、この中中
をよろしく願いい
たします。

「思春期」と呼ば
れるこの中学校三年
間、振り返ってみる
と、どんな自分がい
ましたか。積極的に
行動できない自分、
人と本音で話し合え
ない自分、周囲から
取り残され、焦って
いる自分、苦手を克
服できずに、もがい
ている自分、友達に
嫉妬する自分、人に
不満や怒りをぶつけ
た自分、ありがとう
の一言も言えない自
分。そして三年たつ
た今、少し成長した
自分を見付けられま
すか。相手の目を見
てあいさつができる

自分、友達に優しい
言葉を掛けることが
できる自分、周りに
心配りができる自分
素直にごめんなさい
が言える自分、本気
で人とぶつかり合う
ことのできる自分、
親に少し優しくでき
るようになった自分、
困難から逃げなくな
った自分、夢に向か
って挑戦する自分。

私は、皆さんとは
今年一年だけの付き
合いでしたが、少な
くとも私の目には今
大きく成長した皆さ
んの姿が映っていま
す。君たち卒業生は、
私たち中中教職員の
誇りでした。運動会
で見せた覇気あるソ
ーラン、文化祭で全
員で作りに上げた演劇
たくさんの笑顔がは
じけた修学旅行、全
ての行事で後輩を導
いた君たちでした。
一人一人の心の奥に
ある良さや、より良
く生きようとする思
いや願いを、ためら
わず爽やかに出し合
いながら、互いに支
え合い、より伸びて
いこうとする君たち
でした。

昨年四月の入学式
で、私が「人間」とい
うお話をしたことを
覚えていてでしょう
か。人は、人と人と
の間ではじめて人間
となれるという話で
した。皆さんは、こ
の三年間、今横にい
る仲間や先輩・後輩
、家族や先生、地域の
人、様々な人たちと
の関わりの中で多く
の学びを得て、今、
少し「人間」に近付
いたあなたがいます。
しかし、自分が理想
とする「人間」にな
るための旅は、これ
からまだまだ続きま
す。「コミュニケーションの質は人生の質」
とも言われます。こ
れからも自分のそば
にいた様々な人と積
極的に関わって、で
きるだけたくさん人
に力を貸して、でき
るだけたくさん人に
力を借りて、自分を
いってください。人
にたくさん感謝でき
る自分になったとき
「人間」として成長
できたと言えるのか
もしれません。

私には、もがい
ている自分、友達に
嫉妬する自分、人に
不満や怒りをぶつけ
た自分、ありがとう
の一言も言えない自
分。そして三年たつ
た今、少し成長した
自分を見付けられま
すか。相手の目を見
てあいさつができる

自分、友達に優しい
言葉を掛けることが
できる自分、周りに
心配りができる自分
素直にごめんなさい
が言える自分、本気
で人とぶつかり合う
ことのできる自分、
親に少し優しくでき
るようになった自分、
困難から逃げなくな
った自分、夢に向か
って挑戦する自分。

私は、皆さんとは
今年一年だけの付き
合いでしたが、少な
くとも私の目には今
大きく成長した皆さ
んの姿が映っていま
す。君たち卒業生は、
私たち中中教職員の
誇りでした。運動会
で見せた覇気あるソ
ーラン、文化祭で全
員で作りに上げた演劇
たくさんの笑顔がは
じけた修学旅行、全
ての行事で後輩を導
いた君たちでした。
一人一人の心の奥に
ある良さや、より良
く生きようとする思
いや願いを、ためら
わず爽やかに出し合
いながら、互いに支
え合い、より伸びて
いこうとする君たち
でした。

こうしておけば「もし違ふ選択をしていたら」などと後ろを向いて悔やむばかりでは、今という大切な時間から輝きが失われてしまいます。

他人と比べるのではなく、過去と比べるのでもなく、自分が選んだ今日の前にあるこの道にいつも自信と誇りを持って生き生きと歩み続けてください。自分が幸せかどうかは自分の心の持ち方次第です。これからの人生の一つ一つの場面で、そのような心の持ちようを積み重ねていけば、進む道は違っても、やがて君たち十人の人生は必ず輝いていくと、私は信じています。(後略)

旅立ちの言葉

私たち三年生十名は、今日、中島中学校を旅立ちます。振り返るとたくさんの思い出が鮮やかにみえつつあります。今から三年前、小学校とは違った雰囲気、緊張と不安で一杯だった入学式。真新しい制服を着ると、ちよびり大人になった気がしたことを今でも覚えていますが、先輩方もつとつと大人に見えました。圧倒されるような「覇気」あるような「覇気」ある校歌。こんな中学生になりたいたいけれどなれるのだろうか。そんな気持ちを抱えて私たちの中学校生活はスタートしました。みんなの方向音痴があらわになった大洲の集団宿泊研修。

そう思っていたウォークラリーでは、三班中二班が迷子になりました。大洲城を指していたはずなのに、行き着いたのはなぜか結婚式場。先生方や職員のみなさんが必死に探し回ってくださったのも、今では笑い話です。力し、成長した三日間。私たちの絆がまた一つ深まりました。必死で先輩の背中を追いかけた無我夢中の一年間を経て迎えた二年生の始業式。登校すると、黒板にはかわいい太陽の絵が描かれました。それが、私たちと平松先生との最初の出会いでした。あの日先生が掲げた「笑顔」のキーワード

ド通り、先生はいつも笑顔で優しく私たちを支えてくださいました。おかげで一年間安心して過ごすことができました。本当にありがとうございました。大人への第一歩を踏み出した少年式の日。わがままで、面倒くさがり屋の自分を変える。そう心に誓いました。周りの人を優しく照らす存在になるという思いを込めた、星空のモザイクアート。二万マスを塗るのは心が折れそうになったけれど、完成したときの達成感ですべて報われました。そして、みんなで心を一つにして歩いたしなみウォーク。話しながら歩いた何気ない時間が幸せでした。亀

老山の山頂で見た絶景は一生忘れません。三年生となり、四月から始まった、体験寮プロジェクト。大好きなこの中島を、島の外の人にも好きになってもらいたい。そんな思いで、一生懸命準備を重ねました。美しい海や山、いつも温かく見守ってくくださる島の人たち。美しく、かけがえのないものの存在に気付きました。当日は大勢の参加者に圧倒されそうになったけれど、必死でやりきりました。やっぱりふるさと中島は、私たちの誇りです。三年間打ち込んだ部活動。初めての総体で、キャプテンの「覇気」に衝撃を受けました。三年生となり、部全体を一つ

にできる先輩のようになきゃブテン像をずっと追い求めてきました。なかなか理想通りにチームをまとめることができず、迷い、もがき続ける日々もありました。しかし、そんな日々があつたから、自分たちは少し大きくなれたと思います。ついでにきてくれた一、二年生。頑張ってくれたのは、みんなの力があつたからです。ありがとうございます。小中合同運動会。一年生の頃は、先頭でソーラン節を踊るで、三年生がただかっこよく見えました。いざ自分が先輩になってみると、みんなを引っ張ることができず、悩むことばかり。意見が合わず、けんかすることもあ

りました。全てを投げ出し楽になりたい。でも、一生懸命ついてきてくれた後輩、サポートをしてくださった先生方。そのおかげで最後まで頑張ることができました。本当にありがとうございました。声が枯らし、全員のかたがとごさいました。気持ちを全力でぶつけたソーラン節。私たちの思いは届きましたか。中中生の絆が深まった文化祭。時間がない中での合唱練習では、なかなか声が響かず不安になることもありました。でも、本番は全員が丸となり、最高の合唱になりました。そして、三年生全員で一生懸命つくりあげ

(裏面に続く)

た、有志劇。観客の方々に楽しんでもらうため、みんなに笑ってもらうためにアイデアを出し合いました。でも、結局一番楽しんだのは自分たち。練習で案を出しながら、笑い転げた日々が忘れられません。

二泊三日の修学旅行。とても楽しみな気持ちでバスに乗り込みました。すると、途端に添乗員さんのアシデント。先行き不安なスタートでした。でも、あれだけ楽しい旅行になったのは、添乗員さんとバスガイドさんの最高の掛け合いがあったからこそです。水族館、美術館、遊園地。そして何より楽しかったのは、ホテルで仲間と過ごし

た時間でした。一生分笑った気がするあの時間。このメンバーでよかったと心の底から感じました。

自分の進路と向き合ったこの一年。「受験は個人戦ではなく、団体戦」岡田先生の言葉で学級の雰囲気が変わりました。だれよりも生徒目線で頑張りを認めてくださる先生の存在が、前へ進む力となりました。弱い自分を、ガツンと叱ってく

さった先生。弱気になったとき、「何とかなるけん」と励ましてくださった先生。今があるのは先生のおかげです。「人と比べる過去の自分と比べることが大事」その言葉を胸に、三年間の自分を見つめ直した私たちは、今、

未来の自分へと一歩を踏み出します。得居先生、三年間お世話になりました。先生は、この三年間ずっと私たちのそばで私たちのことを導いてくださいました。いつも生徒目線で考えてくださり、授業

がとても分かりやすかったです。「がんばれ！」と優しい言葉を何度もかけていただき、その言葉で学習や行事などを頑張ることができました。ノートに書いてあるコメントもすごくうれしかったです。どんなときも、陰で支えてくださったおかげで思い出に残る三年間を送ることができました。本当にありがとうございました。

（中略）



当たり前の日々が今日で終わります。私たちは、たくさんの愛情に包まれながら過ごした日々を一生忘れません。一緒に過ごした仲間たち、先輩のみんな、家族、先生、本当にありがとうございました。



修業式

一年間を振り返って

二年 華音

中学校に入学して、もう一年がたちました。中学校の生活は小学校とは違い、時間を守り、自分で考えて行動することが多くなりました。初めは戸惑いもありましたが、今では先を見通しながら生活することができるようになりました。忙しく過ぎていった一年間ですが、印象に残っている思い出が三つあります。

一つ目は、大洲青少年自然の家での宿泊研修です。二年生と一緒に活動し、先輩とたくさん話をしたり様々なことを教えていただいたり

二つ目は、小中合同運動会です。特に、応援合戦やソーラン節の振り付けでは、細かい動きを覚えることが難しくとても大変でした。そんなときに、先輩が丁寧に教えてくださり、練習を重ねることで、本番では満足のいく演技ができました。

三つ目は、日々の学習です。初めは、毎日予習や復習をしようと思ったのですが、宿題に追われてしまうことが多くありました。「あのとさもう少し復習していれば」と反省することが多々あり、毎日少しずつ積み重ねることの大切さを実感しました。

二週間後には二年生として学校生活がスタートします。そして、来年度は中島小学校からだけでなく、松山市内の学校からも新入生が入学し、中島中学校がさらににぎやかになると思います。そこで、私は二つ頑張りたいことがあります。

一つ目は、先輩として自覚を持ち、生活することです。一年生とたくさん接し、困っていれば助けあげられる先輩になりたいです。また、小中合同運動会では副応援団長を務めることになったので、上手く後輩を引っ張っていききたいです。

二つ目は、学習です。毎日の積み重ねを大切にして、テストで少しでもよい点数を取ることができるよう、頑張りたいです。



二年 恭児

二年生としての一年間も終わり、明日から春休みです。

この一年間を振り返ると、たくさん思い出ができました。その中でも特に印象に残っているのは、少年の日記念行事の

しまなみウオークです。僕たち二年生は、記念行事としてしまなみ海道をウォーキングし、その後、大三島にある大山祇神社や村上海賊ミュージアム、亀老山などへ行きました。しまなみ海道の中でも、僕たちが歩いた来島海峡大橋は海面からの高さが平均して七十メートルほどあり、高いところが苦手な僕からするとなかなか怖かったです。しかし、みんなと会話をしながら歩いた時間は、とても楽しかったです。亀老山の頂上では、暗い雲のすき間から夕日がさして、なおかつ雪も舞っていたため、とても幻想的な景色を味わうことができました。とても印象に残る

残る良い思い出を作ることができました。さて、明日からは春休みです。僕はこの春休みに行いたいことが二つあります。一つ目は、勉強です。三年生になると実力テストがあるので、それに向けて、二年生での学習内容だけでなく、一年生で習った内容もしっかりと復習し、テスト対策をしたいです。

二つ目は、運動会の応援準備です。僕は、来年度たちばなを務めるので、春休みに学校へ来て、応援の準備などをするつもりです。

四月からは、最高学年の三年生になり、今までは先輩に教わる立場だったのが、今度は教えたり皆をまとめたりする立場になります。その自覚を持って行動できるような、覇気ある中学生を目指します。

準備していきま。しっかりと目標を立てて充実した春休みにします。

